

6. 事業内容	当期は、対象地域の基礎教育をインフラと教師の能力強化の両面から支援する事業の第2期となる。第1期では、教師、各郡レベルで当事業を担当する教育訓練局職員、現地カウンターパートであるプラン・ベトナム職員ら約40名によるコアチームを選出し、指導者としての育成を行った。さらに一部の教室や教材などの教育環境を整備し、児童参加型授業の推進も実施している。また、地域の教育活動への保護者の参加も増えつつある。第2期ではコアチームの育成や保護者の参加をさらに推し進め、当事業の終了後に活動の成果が持続するよう、以下の活動を実施する。 1. 子どもにやさしい教育環境の整備 1. 1 教室建設および教室備品の支給 今期は、劣悪な環境下にある小学校3校で7教室を建設する（ハザン省シンマン郡ドアンケット村、クアンガイ省バトゥ郡ヌオックラン村、クアンビン省ミンホア郡ゾ村）。 ハザン省ドアンケット村には現在学校がなく、児童は隣村の分校に通っている。しかし、その分校の校舎は脆弱な作りで危険なため、ドアンケット村に2教室と教員スペースからなる校舎を新設する。クアンガイ省ヌオックラン小学校には現在5学年が通うが、3教室しかないため、午前・午後の入れ替え制で児童は半日だけの授業を受けている。そのため2教室を追加で建設し、全学年が全日授業を受けられるようにする。クアンビン省ゾ小学校の3学年は、現在トタン板でできた仮設校舎で学んでいる。ここは校舎が脆弱なうえ、室内は暗く、雨風の影響も受けやすいため、3教室を新設する。 （参考資料3. 教室建設対象校の状況参照、参考資料4. 本校と分校の違い） 1. 2 衛生・給水設備の設置 1. 1の対象校3校すべてで衛生設備が不足もしくは老朽化しているため、各校に男女別トイレと給水設備を設置する。また、教師、児童に使い方を指導する。 1. 3 図書を支給 第1期に引き続き、対象地域にあるすべての本校を対象に、児童用図書を支給する。支給図書は、少数民族の歴史や民話を伝える本を含めるなど、民族の文化に配慮する。教師には、第1期に実施した「子どもにやさしい教育環境の活用」トレーニング内で管理方法を指導した。本事業期間でも、管理状況についてフォローを行う。 2. 教師対象トレーニング（参考資料5. 教師トレーニングリスト参照） 当事業では、コアチームが専門家からのトレーニングを受けた後、トレーナーとなって地方で全教師へトレーニングを行う。さらにコアチームは対象地域の学校にて授業観察を行い、教師トレーニングの成果が日々の授業内容や子どもの学びに反映されているか、継続して確認する役割を担う。 2. 1. プロジェクト振り返り・計画ワークショップ 事業の効果を測り、より良い計画づくりを行うため、プロジェクト振
---------	--

り返り・計画ワークショップを行う。ワークショップは、コアチームを対象に事業開始時に行う。あわせて、モニタリング・評価に関するトレーニングも実施する。

2. 2. カリキュラム改善策検討ワークショップ

ベトナム語が習得できていない少数民族の子どもたちの現状にあわせて全国統一のカリキュラムに調整を加え、日々の授業に取り入れる。ワークショップは、各省で各校から派遣される教師 95 名、当事業を担当する省や郡レベルの教育訓練局職員 13 名などを対象に行う。

2. 3. 教師間の学びあいトレーニング

日本人教育専門家が中心となり、公開授業や教師同士の学びあいなど、第 1 期に実施したトレーニングを継続して行う。トレーニングは、コアチームを対象に年 2 回行う。第 1 期には、コアチームの中で中心的な役割を担う教師、教育訓練局職員、現地カウンターパートであるプラン・ベトナム職員ら約 25 名によるキートレーナーを選出した。キートレーナーは、バクザン省（過去の JICA 支援でこの手法をすでに導入している地域）で行われるトレーニングにも参加する。学びあい実施をけん引するモデル校として選定した各郡 1 校ずつ計 5 校の小学校では、学校レベルでのトレーニングをハザンとクアンビンでは年 3 回、クアンガイでは年 2 回実施する。また、各校では公開授業を毎月行い、教師間の学びあいを促進するが、コアチームは他校の公開授業にも定期的に参加して直接指導を行う。バクザン省の教師など教師の学びあい経験を持つ現地教育専門家、教育訓練局職員、当団体職員も、現場指導を継続的に行う。

2. 4. プロジェクト成果確認ワークショップ

事業の成果を図るため、教育専門家による現地調査を行う。さらに、その学びを事業終了後や他地域の活動に活かせるよう、プロジェクト成果確認ワークショップを行う。ワークショップは、コアチームおよび教育訓練省職員を主な対象とし、各省およびハノイで 1 回ずつ開催する。

3. 地域での教育活動の推進

3. 1. ベトナム語指導のための教員アシスタント配置

第 1 期には、対象地域で最も言語の問題が大きいハザン省において、少数民族の子どもたちのベトナム語習得をサポートするための教員アシスタントを 6 人配置した。第 2 期も継続する。教員アシスタントは、地域の保護者を中心に少数民族の言語とベトナム語の両方ができる人物を採用した。日々の授業では、ベトナム語の難しい用語を少数民族の言語で解説するなど、児童の授業理解を促進している。

3. 2. 地域の読み聞かせ会の開催

第 1 期には、児童が 1 年を通してベトナム語を継続して学べるように、夏休みの期間に週 1 回の読み聞かせ会を地域で開催した。第 2 期も継続する。地域の保護者や教師が中心となり、1. 3 で支給する図書を活用し、貸し出しも行う。

7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	①これまでの事業における成果（実施した事業内容とその具体的成果） 第1期前半では、主に以下の事業内容を実施した。 1) 子どもにやさしい教育環境の整備 ・ 110校に図書を支給し、7,053人の児童が使用することで、子どもたちが楽しみながらベトナム語を学ぶことができるようになった。 2) 教師対象トレーニング ・ 各種教師トレーニングを実施し、629人の教師が参加。教師の教え方が向上し、子どもたちが以前より授業に参加できるようになった。 ・ トレーニング後、63人の教師が教室環境の改善・教材作成に着手。子どもたちは、図書や教材をディスプレイに活用した教室環境で、自分たちに適した教材を使いながら学べるようになった。 ・ トレーニング後、基幹校22校が各4回の学びあい公開授業を実施。教師は子どもを中心とする授業観察を行い、教師間の学びあいで積極的に意見交換をするようになった。 ・ トレーニング後、629人の教師が学びあいに継続参加。教師が継続して、授業の質の改善により積極的に取り組むようになった。 ・ 各種教師トレーニングを通して、対象3省の教師が異なる地域の教員から学びあい、改善策を提案しあう姿勢が見られるようになった。 3) 地域での教育活動の推進 ・ 教員アシスタントを6教室に配置、120人の児童に少数民族言語のサポートを提供。子どもたちが授業内容をより理解できるようになった。 ②これまでの事業を通じた課題・問題点 1. 教室建設対象地域において、予想外の大雨により、土砂崩れが発生した。 2. 年度ごとに児童数も変化し、学校を取り巻く環境も絶えず変化している。 3. 各地で行われる教師トレーニングへの参加者の移動負担が大きい。 4. 各種のトレーニングの定着度合いが、教師によって異なる。 ③上記②に対する今後の対応策 1. 教室建設時の安全対策を強化し、土砂崩れ防止のための石垣設置などに取り組む。 2. 教室数の追加など、環境の変化に柔軟に対応する。 3. 参加者の移動負担も踏まえて、教師トレーニング実施場所を調整する。 4. 教師の知識やスキルに応じて、トレーニング回数の追加、教育専門家による直接指導の強化などに取り組む。
--------------------------------	--

8. 期待される成果と成果を測る指標	直接裨益者数：7, 729人（対象15コミュニティの就学児童、教師、教育訓練局職員） 間接裨益者数：64, 519人（対象15コミュニティの全人口） （参考資料6. 裨益者数内訳参照） 1) 子どもにやさしい教育環境の整備 本事業にて3校の教室および衛生施設を整備、ならびに図書支給を行うことにより、子どもたちの学習環境が改善される。 ● 安全な教室で授業を受けられるようになる児童の数： 対象3校の児童うち 現在112人→ 191人 ● 二部制ではなく、全日授業を受けられるようになる児童の数： 対象3校の児童うち 現在105人→ 191人 ● 学校で適切な衛生設備を使い、正しい衛生習慣を実践する児童の数： 対象3校の児童うち 現在0人→ 191人 ● 追加図書を活用できるようになる児童の数： 現在0人→ 対象15コミュニティの全児童 7, 086人 【確認方法】 ● モニタリングにて施設・図書および利用状況の確認 ● 対象3校の教師・児童および対象3郡の教育訓練局職員インタビュー 2) 教師対象トレーニング 本事業で実施した教師研修を受講することによって、教師の教授能力が向上し、児童の理解の深化に寄与する。 ● 少数民族の児童向けにカリキュラムを調整する教師数： 対象15コミュニティの全教師 615人が少数民族の児童向けにカリキュラムを調整し、児童が授業をより理解できるようになる。 ● 少数民族の児童向けの授業案を紹介する資料の発行数： 対象15コミュニティの基幹校22校で授業案を紹介する資料が年間1回発行され、教師が授業事例から学ぶことで、授業の質が改善される。 ● 学びあい公開授業の実施回数： 対象15コミュニティの基幹校22校で公開授業が年間7回実施され、授業観察や教師間の学びあいを通して、授業の質が改善される。 ● 学びあいを理解し、各コミュニティで継続参加する教師の数： 対象15コミュニティの全教師 615人が各コミュニティで教師間の学びあいに参加し、継続して授業の質の改善に取り組む。 【確認方法】 ● モニタリングにて教師トレーニングの実施状況および各校の授業内容の確認 ● トレーニングに参加した教師・教育訓練局職員インタビュー ● コアチーム対象アンケート ● 授業案紹介資料の確認 ● コンサルタントによる教師トレーニング実施報告書 ● コンサルタントによるプロジェクト成果確認調査
---------------------------	---

	3) 地域での教育活動の推進 地域の教育活動と、学校と地域住民の連携が促進される。 ● 教員アシスタントのサポートを受けた児童の数： ハザン省の6教室に通う少数民族児童 120人が教員アシスタントの語学サポートを受け、授業をより理解できるようになる。 ● 地域の読み聞かせ会に参加した児童の数： 対象15コミューンの児童の一部 1,800人が地域の読み聞かせ会に参加し、夏休み期間もベトナム語を継続して学ぶことができる。 【確認方法】 ● モニタリングにて各校の実施状況の確認 ● 各校の教師・児童および教育訓練局職員インタビュー ● コアチーム対象アンケート ◆事業終了後に見込まれる成果とそこに向けた取り組み 3年間の事業終了後には、日本の知見を活かした「教師間の学びあい」が対象5郡のすべての小学校で行われ、さらに他郡へと展開されていくことを目指す。さらに、この取り組みをベトナム全国の小学校に普及させるべく、プロジェクト成果確認ワークショップ等を通して「教師間の学びあい」の成果を教育訓練省へ伝えていく。 また、事業終了後も教員アシスタントや地域の読み聞かせ会が継続されるよう、住民参加を促しつつ、対象地域の自治体や学校に働きかけを行う。
--	--